

漆喰しっくいと暮らそう

SHIKKUI LIFESTYLE MAGAZINE

漆喰と遊びゴコロ



特集

遊びゴコロを刺激するテクスチャ塗りに挑戦!

漆喰うま〜くヌレール インタビュー

現代に現れた江戸の家。

江戸料理文化研究所代表・時代小説家 車 浮代さん

漆喰工事 インタビュー

歴史にある古民家に住もう。

.... and more

\\ 新創刊 /

「ずっと、もっと、しっくい!」と
「漆喰スタイル」が一冊に
なりました

vol. 1

FEBRUARY 2024

「漆喰と暮らそう」は、漆喰大好き!な、日本プラスター株式会社のコミュニケーション誌です。



季刊誌『漆喰と暮らそう』発刊にあたり

季刊誌『漆喰スタイル』ならびに『ずっと、もっと、しっくい！』をいつもご覧いただき、誠に有難うございます。
改めて弊社漆喰への格別のご厚情とあわせ、心より御礼を申し上げます。

創業95年に感謝

おかげさまで、弊社・日本プラスターはこの2月6日、創業95年を迎えました。95年間ずっと、漆喰、モルタル、ドロマイトプラスターといった天然素材由来の塗り壁製品のみを専業で製造・販売し続けております。昭和40年代（1965年）以降、「塗り壁よさよ」うなら、壁紙よこんにちは」の時代が到来し、それから50年以上経過しておりますが、この傾向は未だ一向に変わっておりませんが、そのような中、前期決算（2023年11月期）で過去最高売上高を上げ、社員数もこの4月に60名を越え、漆喰が徐々に浸透しご理解をいただけるようになったことを感じております。

南イタリア

昨9月、漆喰のメッカというべきイタリア南部のプーリア州を訪問し、素晴らしい漆喰建築にたくさん触れてまいりました。29年前、ドイツ・フランスを訪問し、ヨーロッパの住宅における漆喰壁の美しさ、心地よさに触れて以来ずっと、日本の住宅にヨーロッパのように漆喰を広げたいと思いつき、ここまで弊社漆喰の普及拡大に努めております。今回の本場・南イタリア訪問で、改めて漆喰の美しさ、心地よさに魅了されました。もっともとお住まいに漆喰壁を広げたいところ、そう心新たにしているところです。（今年のG7会場はこのイタリア・プーリア州です。開催時期になればきっと、当地の漆喰建築の美しさが報道を通じて目に留まる機会も多くなるかと思えます。）

あえてBOOKで

弊社漆喰工事を紹介する季刊誌『漆喰スタイル』と漆喰DIYのコミュニティ季刊誌『ずっと、もっと、しっくい！』を、令和4年（2022年）2月より発刊し、それぞれ3か月に一度約5,000名超の皆様にお届けしてまいりました。メルマガやSNSが普通の時代に、BOOKという形で郵送費をかけ皆様にお送りするのはどうかと考えもしましたが、ハンドメイドの漆喰だからこそ、丁寧



BOOKとしてお届けしようと思いましたが、いずれの季刊誌も、印刷以外の作業は取材、執筆、編集を含め自社で行なっております。有難いことに、この2つを通じ、これまでとは違った新たな出会い、ご縁をたくさんいただいております。多くの法人様で社内回覧までしていただき、その中から社員の方がご自宅を漆喰にされる事例も生まれました。

2つの季刊誌を統合

今回より、ご覧いただいた2つの季刊誌を統合し、弊社漆喰を総合的にお伝えする季刊誌『漆喰と暮らそう』として、3か月に一度発刊させていただくことと致しました。漆喰工事も漆喰DIYも同じ漆喰です。求めているニーズやお値段、詳細なやり方、技量等は、漆喰工事と漆喰DIYで異なるかと思えますが、「漆喰の壁・天井っていいな、素敵だな」との思いは一緒です。この季刊誌『漆喰と暮らそう』を通して、漆喰工事、漆喰DIY双方の情報をお伝えします。漆喰の魅力を再認識する一助にしたいだけできれば幸いに存じます。

WEBもご利用ください

本年より、積極的にWEBでの情報提供を行ってまいります。また、この2月から、インスタグラム、フェイスブックを通じ、フレッシュな情報をふんだんにお伝え致します。漆喰うま〜く〜又〜ルール公式ホームページは4月に全面刷新され、動画提供も格段と充実してまいります。こちらもぜひご利用ください。

最後になりますが、令和6年・2024年が皆様にとりまして、素敵な一年になられることを心よりご祈念申し上げます。

深謝



日本プラスター株式会社 代表取締役

奥山 浩司

日本建築仕上学会2020年技術賞受賞
日本漆喰協会 幹事長
(宇都宮大学 客員教授)

学術論文 「しっくいの現状と将来」
(無機マテリアル学会Journal of the Society of Inorganic Materials, Japan 14.261-267 (2007))
「しっくい壁の機能性を再認識」
(無機マテリアル学会Journal of the Society of Inorganic Materials, Japan 18.357-363 (2011))



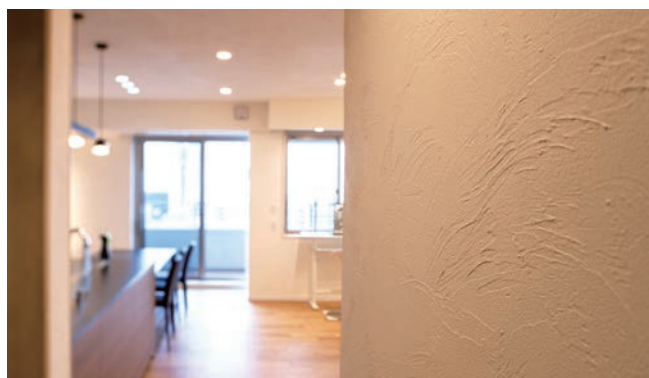
しっくい 日本プasterの漆喰事業

お住まいにこそ漆喰を。
漆喰DIYも漆喰工事も、漆喰のことならお任せください。

漆喰壁による上質な インテリアライフスタイル 漆喰工事『漆喰スタイル』



創業から95年。塗り壁材専門メーカーである日本プaster株式会社がご提供する漆喰工事「漆喰スタイル」。お住まいや店舗、集合住宅など、ニーズに合わせた最適な漆喰壁のご提案から、漆喰一筋の左官社員による漆喰施工までをトータルコーディネートいたします。「こんな家に住みたいな」を、プロの技術で叶えます。



showroom 漆喰空間を体験できるショールーム



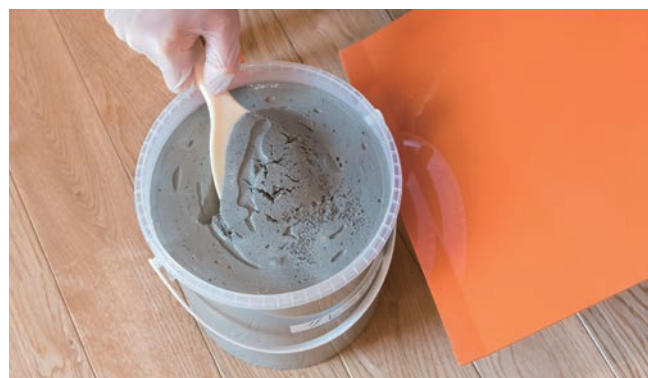
東京都台東区東上野3-38-4
<https://shikkustyle.com> (ショールームのご予約はサイトから)

漆喰をもっと身近に、 もっと楽しく漆喰DIY 『漆喰うま〜くヌレール』



フタを開けてすぐ塗れる！塗りやすい！メンテナンスが手軽！誕生から20年以上、多くの方に愛され続けるDIY用の最高級漆喰「漆喰うま〜くヌレール」。漆喰の持つ調湿性や消臭力、防カビ性、不燃性といった特性はそのままに、誰にでも扱いやすいペースト状にしました。

「こんな家に住みたいな」を、漆喰DIYでご提案します。



showroom 漆喰DIYを体験できるショールーム



【LABO東京】東京都台東区東上野3-38-4
【LABO京都】京都府京都市中京区市之町170
<https://umakunureru.com> (DIY教室のご予約はサイトから)

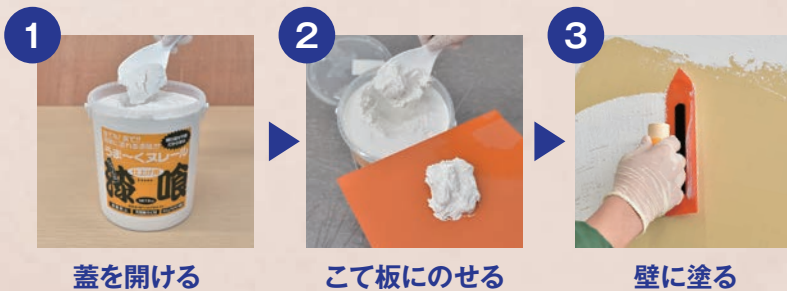
遊びゴコロを刺激する パターン塗りに挑戦

漆喰DIYの醍醐味は、自由に挑戦ができること。

今回は、質問をいただくことが多い「模様の付け方」について、

基本的で挑戦しやすい3つの塗り方をご紹介します。

ぜひ、お試しください！



1 蓋を開ける

2 こて板にのせる

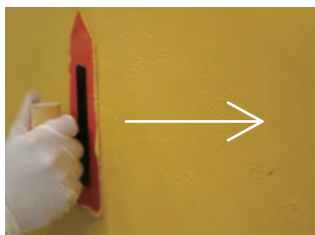
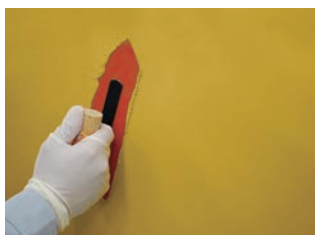
3 壁に塗る

うま〜くヌレールは、全ての色で練り混ぜ不要です。従来の漆喰で手間だった「材料と水の練り混ぜ」と「練り混ぜ時に目に入る危険があった「粉の飛散」。二つの課題を解決した漆喰です。

基本的な塗り方の手順
まず、塗りたい壁の周囲の幅木や窓枠などをマスキングテープで養生します。床面もコロナマスカーや古新聞などで汚れを防ぎます。
ここまで終われば後は簡単。漆喰うま〜くヌレールを適量こて板に移し、コテで塗っていきます。1回目塗りが終わったら、30分ほど空けて2回目塗りを。パターン塗りをを行うのは2回目塗りのタイミング。塗った時にコテの動いた跡が残るぐらい、やや厚めに塗るのがポイントです。

基本的な塗り方の手順

壁全面に2回目塗り

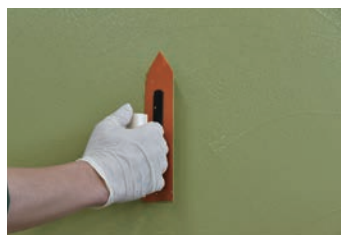


コテの全面を壁につけて引く

自然な凹凸で光の変化を楽しむ、漆喰の質感が生かされる塗り方のひとつ。どのような模様になるかは漆喰の気分次第。偶然が生み出すパターンの面白さが魅力です。

コテの角度を変えるだけ「引きずり」

壁全面に2回目塗り



ヘラで横に引く

その名の通り、くしを引いたようなラインを描くパターンです。今回はタイルを貼る時に糊を塗るのに使うボンデラを使用しましたが、ケーキに柄を描くのに使うデコレーションクリームなどでも同様のラインが引けます。厚めに2回目塗りができたら、表面を撫でるようにして、漆喰を掻き取ります。漆喰の量(厚み)によっても表情が変わるので、どんな柄に仕上がるかドキドキ、ワクワク挑戦してみてください。

道具を使って「くし引き」

checkpoint

30°

壁に対する
コテの角度

こての角度は30°が目安。1回目塗りも2回目塗りもまずは薄く塗り広げるのがコツ。その時、壁面とこての角度はおよそ30°をキープしながら塗りましょう。

checkpoint

保護具

必ず着用
しましょう

コテ塗りの場合も、手塗りの場合も必ずゴム手袋を着用しましょう。服装も肌の露出を抑え、肌に漆喰がつかないように心がけて施工しましょう。

本番前に練習できる/

うま〜くヌレールLABO 漆喰DIY教室

うま〜くヌレールLABO東京・京都は、漆喰DIYを学べる「漆喰DIY教室」を開催しています。右記QRコードよりご予約ください。



ゴム手袋をはめて直接手で塗ります。直線、曲線、ハンドスタンプなど、ランダムに塗っても様になるのが漆喰の魅力。ぜひ自由に楽しんでください。道具を使うのは苦手という方にもおすすめです。

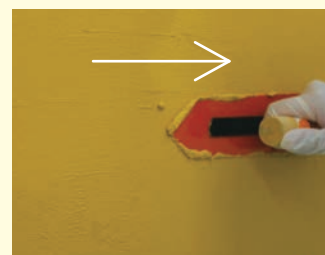


※必ずゴム手袋を着用してください。

不器用さんでも大丈夫！「手塗り」

「引きずり」のポイント

コテがうまく動かせないという方は、コテを寝かせて抵抗を減らすと動きやすくなります。コテを縦にした場合とは異なるパターンが生まれるので、組み合わせてもOK。



うま〜くヌレールLABOは完全予約制です。



江戸料理文化研究所代表・時代小説家、車 浮代さん特別インタビュー

現代に現れた江戸の家。

江戸風キッチンスタジオ

Produce by 江戸料理文化研究所



『^{しっくい}漆喰うま〜くヌレール』と多くの人の手によって誕生した江戸の台所。
江戸料理文化研究所の代表で文筆家の車浮代さんに
漆喰DIYについて伺いました。

江戸時代から
ある素材だから
漆喰を選びました。

私の執筆活動には3つの柱があつて、ひとつは時代小説、もうひとつは江戸時代の食文化の研究、そして浮世絵の研究です。これまでに20冊以上の本を出版しており、テレビの取材や撮影の仕事を受けることも。ところがレンタルスタジオで撮影すると、江戸時代の再現料理を作っているのに、調理風景が現在のキッチンにガスレンジなのが残念で、自分のスタジオ、それも時代劇に出てくるような江戸の台所を持ちたいと考えていました。そんな折、先輩作家の柘いつかさんのご尊父が住まわれていたこのマンションの一室を譲っていただけることになり、これを機に夢を叶えてみよう、と、リノベーションすることに決めました。ですが、こちらのお部屋は前の方が40年以上住まわれていた上に、直近の1年半は空き家状態でした。部屋に入ってみるとクロスが剥がれていたり、塗り壁が変色したりしていて、「これはまず、壁をなんとかしなければ」と考えました。私は江戸文化の研究をしているので、土蔵やお城などの壁に塗られている漆喰に憧れがありました。当時、純白で火事に強い漆喰は高級品でした。それで最



初は漆喰風のテクスチャの壁紙を探していたのですが、「そっぴいえばテレビで、素人でも塗れる漆喰が紹介されていたはず」と思い出し、ネット検索したところ、すぐに『漆喰うま〜くヌレール』に辿り着きました。「本物の漆喰が使えるのなら、その方がいい〜!」と、すぐにご連絡をして、ご協力をいただいたという流れです。

こだわりのベンガラ色。 京都の茶屋から インスタレーションを。

まずは上野のLABOに伺って漆喰について学び、色のバリエーションや、さまざまな塗り方を教えていただきました。色については、部屋によって変えようと思っていましたので楽しく迷わせていただきました(笑)。そんな中ですぐに決まったのはベンガラ色です。

私は大阪出身なので、時々京都に遊びに行っていて、八坂神社の近くにある祇園の『力茶屋』を通るたび、紅色の壁に焦茶色の柱が象徴的で格好いと思っていたので、商品の中にベンガラ色を見つけた時は「絶対一室はこれ!」と、真っ先に選ばせていただきました。

撮影や打ち合わせに使う四畳半の部屋を、お茶屋さんのイメージでベンガラ色に塗り、襖は金・白・黒漆色のペンキで塗り分けました。

玄関は、土蔵をイメージした白い漆喰とベンガラ色のツートーンでインパクトのある仕上げにしました。お手洗いは白より少し落ち着かせたいのでパウダージェリーに、倉庫は明るい和のイメージの若草色に、控え室の色は落ち着きのある黄

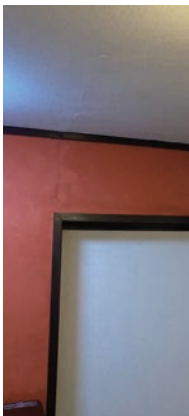


(左)エイジングをかけたメインキッチン。江戸時代の台所の煤けた感じを表現。(中央)黒漆を塗った襖とベンガラ色の壁。(右)実際に使われていた茶屋の看板。江戸時代を今に感じる道具が多く並び、漆喰壁との相性も良い。

土色にしました。メインとなる江戸の台所部分ですが、ここは「Fusuma」のLDKの一角を江戸風に、残りは現代のキッチンを残しています。

全体をクリーム色に統一し、江戸の台所部分は、時代色を出してエイジングをかける都合上、プロの方に施工をお願いしています。

また、今回は思いっきり遊ぼうと思って、倉庫の部屋などは壁によって塗り方を変えています。例えば、立体的にして波を描いてみたり、市松模様や青海波模様をつけてみたり、ゴム手袋でそのまま塗ったところもありますよ。





車 浮代さん

江戸料理文化研究所代表、時代小説家。江戸文化、特に浮世絵と江戸料理に造詣が深く、テレビやラジオなどへの出演も多い。著書に「江戸っ子の食養生」「気散じ北斎」「鳶重の教え」など多数。

kurumaukiyo.com

江戸風キッチンスタジオ

Produce by 江戸料理文化研究所

2024年3月中旬、埼玉大学の近くにオープン予定。江戸時代の台所を再現したキッチンと、漆喰で仕上げた和室があり、写真や動画の撮影が可能です。

〈問い合わせ先〉048-673-3015



今回のリノベーションには私の他に、編集者やそのご家族、知人など7人ぐらいの方が協力してくださいました。DIYに詳しい方もいらしたのですが、ほとんどが初心者。「僕、不器用なんですけど」と尻込みする人には、「どんなに下手でも、乾いたら格好良く見えるから大丈夫!」と励ましていました。

出来上がって見れば、塗りムラも味に見えて、それなりに立派になるのがいいところですね。結局みなさん、最後はとても楽しんで作業をしてくださいました。「クローゼットの湿気が気になるので、うちもこれにしようかな」とパンフレットを持ち帰られた方もいらっしゃいます。

本日はありがとうございました。

「失敗してもそれがいい」
気づいたら誰もが夢中に。

五感で楽しむ漆喰DIY。

不安や経験をみんなでシェア! 楽しく快適なしっくいDIYを!

みんなのしっくいDIYログ

車 浮代さんの場合

Q

初めてのしっくいDIY、不安だったことは?

A

色ですね。塗った時の色と乾いた時の色が全然違うので、塗る段階では「こんな濃い色だったっけ?」とちょっとびっくりしました。

編集室のコメント

『漆喰うま〜くヌレール』の色は、柔らかく湿った状態では濃く、乾燥すると淡くなります。パッケージやオンラインショップなどでご紹介している色は、完成時(乾燥後)の色。作業中は色が濃くても、しっかり乾燥すればイメージ通りの色になりますのでご安心ください。

Q

これから挑戦する方に、気をつけてほしいポイントはありますか?

A

マスキングテープを剥がすタイミングです。完全に乾いてしまって、マスキングテープが剥がせず残ってしまったことがありました。

編集室のコメント

マスキングテープは、施工が完了したら、すぐに剥がすことが大切です。乾燥してしまうと剥がしにくくなってしまいます。全部の壁を塗り終わった後に剥がすよりも、塗り終わった壁ごとにマスキングテープを剥がすと良いですよ。

しっくい壁の未来を支える若き力 しっくい学舎修了生が活躍中!



2022年5月、一流のしっくい左官を育てる場として設立した「しっくい学舎」。4名の新卒社員が第1期生として入舎をしました。1年間のカリキュラムを修了し、今では現場で活躍をしています。2023年に入舎した2期生も「しっくい学舎」で左官の基礎を身につけ、まもなく現場へ羽ばたこうとしています。

「しっくい学舎」では、「技能×人間性×生産量」を合言葉に左官社員の育成に努めております。技能だけではなく、良い人間性の上にはじめて技能があるという考え方を大切にしています。これからもお客様から見て気持ちの良い仕事ぶり、感動の仕上がりをご提供できるよう日々精進していきます。

私が現場で大切にしていることは、常に改善する意識を忘れないことです。目の前の壁と真剣に向き合い、少しでも改善できないか、今より良い仕上げをするにはどうしたら良いのか、という視点を持つことが大切です。また、左官は技術だけではいけません。1番大切なのは人間性であり、それ無くしてプロフェッショナルとは言えません。学舎で学んだ人間性というものを大切に、日々壁と向き合っています。



しっくい学舎 1期生
青木 紘貴

先輩方からは、何よりもお客様のために最高の仕上げをお届けする、丁寧で質の高い施工を行うことが大切だと学びました。これからは後輩が入ってくるので、私が良い見本となり、頼れる先輩になれるようにたくさん学びます。そしてお客様が感動する美しい仕上がりができるような、技術力の高い左官社員を目指して、日々精進してまいります。



しっくい学舎 2期生
野原 瑠晟

漆喰うま〜くヌレールは使用期限なし! 経年商品の品質調査を実施しました。

2023年11月。品質管理チームによる、経年商品の品質チェックを行いました。製造から10年経過した商品と5年以上経過した商品を実際に塗り、その品質に変化がないかを確認。いずれも作りたての商品と変わらない、柔らかさと発色、質感であることを確認しました。もし皆様のご家庭に残ってしまった商品があれば、付属のラップフィルムで表面を覆って容器のフタをしっかりと閉め、凍結しない場所で保管していただければ、いつでもご使用できます。



お客様に安心してご使用していただくため、当社では製造時の品質確認に加えて、製造後の製品を保管し、定期的に品質確認を行なっています。



漆喰スタイル
SHIKKUI STYLE

お客様インタビュー no.01

神奈川県 H様邸

工 事：外壁塗り替え
材 料：漆喰くるむ外 鍍押さえ
カラー：白
仕上げ：鍍押さえ

歴史ある 古民家に 住まう。

SHIKKUI STYLE INTERVIEW

今回、神奈川県横須賀市にある1960年頃に移築された藁葺き屋根の
素敵な古民家の外壁を、当社工事で施工しました。

お施主様であるH様は、古き良き物を大切に使い続ける方で、リノベ
ーションをされて、古くなったところを直しながら丁寧に長くお住まいになっ
ています。そのお考えや、当社工事で施工について、当社代表取締役の奥山
がインタビューさせていただきました。





奥山：このお住まいは、どの様にして建てられたのですか？

H様：この家は、実は元々あった家を今から60年ほど前に、この土地に移築してきました。以前はこの土地は竹やぶで、とてもひどい状態で、そこを一から拓きましてね。私の主人（旦那様）はスイス出身で育った場所に山が多かったものですか、昔から自然や古い物が好きでした。そこで、自然が多く街からも離れているこの場所に住もうと決めたんです。家は日本の家屋にしたいということで色々検討しているうちに、近所で茅葺き屋根のこの家を見つめました。農家さんのお家でしたが、もう住まわれていなくて。屋根は朽ち果てていましたが、素敵なお家でしたので、それを移築させていただきました。屋根は移築時に葺き直して、その30年後にも再度葺き直しています。

奥山：私たちが施工させていただいた外壁の漆喰はいかがですか？

H様：真っ白で素晴らしいですよ。遠くから見ても、本当に綺麗です。綺麗になって、満足しちゃって、これでもうすっかり大丈夫だって、安心しました。

良い職人さんがたくさんいらしてくださいました。何しろ職人さんの作業が早かったですね。あまり長いこと待ちませんでした。施工してくださった日は雨が降っていて風もすこかったのですが、皆さん雨が降っても一生懸命に施工してくださいました。風がビュービュー吹いても仕事を止めない。しっかりやってくださいました。

奥山：温かいお言葉をありがとうございます。外壁なので、外側の太陽光や風、湿度によって、出来栄えも変わってくるのですが、その後の出来不出来が変わってきってしまうんですね。このまま一気に施工すべきか否かも、その時その時の判断になります。こちらのお住まいは、茅葺き屋根がともしっかりしていて、軒が出ていて雨が直接壁にかからないので、左官社員たちも「これはいける！」とその時に判断したんだと思います。雨が上



から直接かかっていたら、おそらく作業も止めたと思います。

H様：そうでしたか。皆さん、幅が狭くて場所が高くてやりづらい場所も、一生懸命に塗っている姿がとても印象的でしたよ。若い職人さんも、忍耐強くて偉いと思いました。職人さんには素晴らしい規律 (discipline) がありますので、私は好きです。日本語で言うと、色々なことを忍耐強く我慢できる。信念がちゃんとあつて、しっかりやっている。日本は規律がある国と言えますね。

今の若い人もそうですが、(海外では)すぐに職を変えてしまったり、それはそれで色々なことをやるのも良いですが、一つはある程度長く時間をかけないとできないことも沢山ありますからね。それにはやはり忍耐が必要なんです。

それと、皆さんお話も面白くて、とても楽しかったです。若い職人さんも色々よく知ってらっしゃるので、私も喜んでたくさんお話してしまいましたよ。

奥山：ありがとうございます。若い左官社員にとっても、このような素敵な仲間のお住まいを施工させていただくことは貴重な経験です。



特に傷みの酷かった壁は下地から補修し、凹凸の激しい面は二度塗りで表面を調節するなど、「ただ塗る」のではなく、美しく整え、仕上げました。

H様：私も「古いものを直す」という考えを持っていきますのでね。今は村全体も直そうと取り組んでいます。地域のもので、昔からあるものや風景を、もっと大切にしたいと思っています。

こちらの家に住む前は、私もスイスにしばらく住んでいましたが、スイスの山の方にも石造りの家があって、昔からある古い家をほとんどリノベーションしています。

リノベーションはとても大切なことだと思っています。しかし、ただ古い物を大切にすればかりではダメなんです。私はヨーロッパですと見てきたのですが、チューリッヒの街のように、そればかりだと街が美術館のようになってしまいうんです。古くなっちゃって、物が新しく動かないんですよ。もう全て過去のもので、今からのものは何もなくなる。私もこの村について、リノベーションがどこまででき

るかずいぶん考えています。近所の漁師さんとよく話しますが、皆さん70代、80代、90代の方ばかり。(私がそういった話をすると、)なんでも「直すな。放っておけ。」と言う。私からすると、それは面白い言葉。私には「とっておけ」なんです。

奥山：佇まいが朽ちるのを待って「放っておけ」ではなくて、「取っておけ」で、中をリノベーションしてもっと再生すればいいんじゃないか、ということですね？

H様：その通りです。若い人を連れてきて、新しいこと、リノベーションをしたいですね。

奥山：人が作ったものは、良いものは良いものとして受け継がれて、そこに新しい物が入って、変わるものと変わらないものが共存するのが良いですよ。

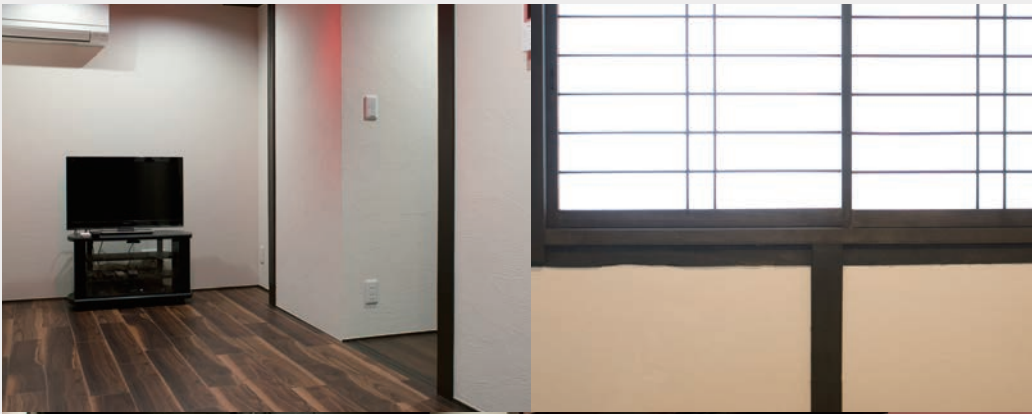
本日は貴重なお話をありがとうございました。



漆喰スタイル
SHIKKUI STYLE

お客様インタビュー no.02

SHIKKUI STYLE INTERVIEW



京都府 K&T様邸

工 事：リフォーム
材 料：漆喰くるむ内
カラー：内-白
仕上げ：ざえん

京町家の 雰囲気そのままに 快適な 住空間を造る。

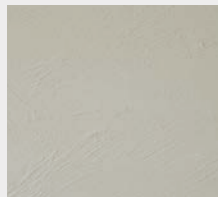
古い建具を生かして
生まれ変わった築90年の京町家。

母が長年住んでいた、築90年ほどの町屋。リフォームの際は古い建具などはなるべく活かして、町屋らしい雰囲気を残したいと思っていました。実は今住んでいるマンションも、リフォームで漆喰塗りにしたのですが、30年以上たっても全く雰囲気が変わっていないので、今回も安心して漆喰を選びました。仕上げについては照明の影まで楽しめるという「ざえん」を、色は少し悩みましたが白に決めました。

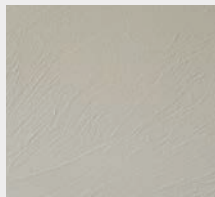
リフォームが終わって一番に感じたのは「想像していた以上の仕上がり」ということです。和モダンな雰囲気がとても落ち着いて気に入っています。建具、梁、天井の昔のままの雰囲気を漆喰の白壁が引き立ててくれて、調和のとれた仕上がりになり家族は驚いていますし、友人からもとても素敵と褒めていただきました。さらには、高温多湿の過酷な京都の夏でも、今年は気持ちよく過ごせたことも嬉しいですね。

「漆喰スタイル」多彩な仕上げ模様

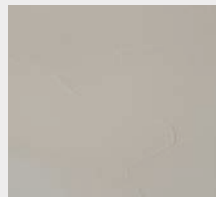
コテの動きによって壁に豊かな表情をつける仕上げ模様。日本プasterの「漆喰スタイル」は施工前にお客様と綿密な打ち合わせを行い、イメージ通りの仕上がりをご提供いたします。



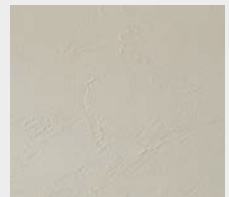
あさぎり



ざえん



なぎ



ゆらり



Shikkui event report

全国公衆トイレ漆喰DIY運動

第2弾

屋外トイレを 漆喰で明るく変身!

【とちのきファミリーランド】

昨年11月19日(日)に開催した、
とちのきファミリーランドでの漆喰DIY
イベントの様子をご紹介します。

漆喰塗り初体験の 小中学生の皆さんと 楽しくDIY

今回漆喰DIYの場所となったのは、
栃木県内外から多くのファミリーが集
う人気の遊園地「とちのきファミリーラ
ンド」にある屋外トイレ。年月が経ち壁
も古くなってきたため、お子様に喜んで
入っていただけるようなトイレにしてほ
しいとお声をいただき、トイレの外壁

を漆喰DIYさせていただくことにな
りました。

遊園地を運営管理している公益財団
法人栃木県民公園福祉協会様と共同で、
漆喰DIYイベントを開催しました。
イベントに参加してくださったのは、一
般応募いただいた小中学生の皆さん。
親子やご兄弟でご参加いただいた方も
多く、計16組39名の皆さんが体験しま
した。また、栃木県のプロサッカーチー
ム「栃木サッカークラブ(栃木SC)」か
ら植田啓太選手、平松航選手も一緒に
参加しました。





Before



After

壁のデザインは、栃木県の県木である「とちのき」の葉とシャボン玉をモチーフに。



全国公衆トイレ 漆喰DIY運動とは？

地域の皆さまと一緒に、当社DIY向け漆喰「漆喰うま〜くヌレール」を塗って、公衆トイレを明るく綺麗にする当社の社会奉仕活動です。当社では漆喰の機能性によって公衆トイレの「暗い・臭い・汚い(3K)」を解消できると考え、2022年2月より活動を行います。



明るくキレイな 漆喰のトイレに！！

イベントは漆喰の塗り方講座から始まり、その後チームに分かれてそれぞれの壁を塗りました。皆さん漆喰を塗るのは初めてだったそうですが、コテの持ち方から習い、徐々に塗り方のコツを覚えて、開始一時間後にはスイスイと塗っていました。どのお子さんも最後まで一生懸命に、そして楽しそうに塗っていました。そして皆さんのチームプレーによって、トイレの外壁が無事に完成し、漆喰の淡い色合いを活かした素敵なトイレに変身しました！

ひとつでも多くの公衆トイレを漆喰で明るくキレイに変身させるべく、当社は今後も全国公衆トイレ漆喰DIY運動を続けてまいります。

「全国公衆トイレ漆喰DIY運動」は、地域の皆様と一緒に弊社DIY向け漆喰「漆喰うま〜くヌレール」を使い、漆喰の壁塗りと漆喰で絵を描く、日本プラスター株式会社の社会奉仕活動です。

公園や学校のトイレで、漆喰DIYはいかがですか？

全国公衆トイレ漆喰DIY運動に応募したい、あるいは、ご興味のある方は、こちらにご連絡ください。

 **0120-323-960**



平松航選手



植田啓太選手

2名の選手も漆喰塗りは初体験でしたが、塗りやすくて楽しく塗れたとのことでした。参加したお子さんと一緒に夢中になって塗ってくださった姿が印象的でした。

SHIKKUI FAN MAP

漆喰散歩

漆喰ファンによる、漆喰を楽しむ (fun) 新コーナー。
 毎号漆喰空間が心地よいお店をご紹介します。今度の休日にちょっとそこまで足を伸ばしてみませんか？

千葉県佐倉市 [KuRuKuRuCAFE]

vol.01



白を基調に漆喰と木の組み合わせが心地よい店内。窓からは佐倉市のシンボルのひとつ、オレンジ風車が見える。

「自分たちでできることは自分たちでやる」がコンセプトの「KuRuKuRuCAFE」。築55年の平屋をセルフリノベーションした店舗の壁には「漆喰うま〜くヌレール」が使われています。「漆喰を塗ってみたい！」という仲間達、総勢8名が集まって2日間で仕上げた壁は絶妙な色使いが美しく、窓から見える沈む夕日や夏の花火大会など、移ろう景色に自然とマッチしています。「みんなでワイワイやって、素

人だからプロのように仕上がりなくとも、なんだかそれが味になる。電球色の明かりを受けたときの雰囲気だとか、場所によって異なる感じも動きがあつていい。この雰囲気、これが漆喰の最大のメリットですね」と語るのはオーナーの吉野さん。建物だけではなく、メニューも近隣農家で仕入れた規格外の野菜や果物、生ごみを堆肥にして育てた野菜を使うなど、その名の通り「循環」する力をフェをめざしています。

循環、リユースをコンセプトとした
 空家リノベーションカフェ。



KuRuKuRuCAFE

千葉県佐倉市飯野211

公式Instagram

営業日:月・火・木(11:00~17:00)金(11:00~21:00)土(9:00~21:00)日(9:00~17:00)
 定休日:水曜日



若草色の漆喰を用い、コテで模様を描いた壁。静と動、漆喰の様々な表情が楽しめる。



近隣農家から仕入れた規格外野菜など、こだわりの素材で作る「野菜のトマトチキンカレー」。

「漆喰散歩」では、漆喰うま〜くヌレールでDIYをしたお店、施設を募集しています。お店の情報は本誌の他、SNS、公式サイトにてご紹介。掲載希望は下記メールアドレスまでご連絡ください。



発行

日本プラスター株式会社

<https://www.plastesia.com>

「漆喰と暮らそう」についてのご意見・ご感想をお聞かせください▼

E-mail:info@plastesia.com

うま〜くヌレールサイト

漆喰スタイルサイト

公式Facebook

公式Instagram



本社・工場

〒327-0311 栃木県佐野市多田町188-2
 TEL:0283-62-6511(代) FAX:0283-62-8851

・SHIKKUI Design STUDIO -TOKYO-
 ・埼玉事業所・西日本営業所